

TSS文化大学一般教養講座
平成29年9月19日10:00～
於 TSS新館9階スタジオ

「しかたがない」から「おかげさまで」へ—日系アメリカ人と和解—

山代宏道（広島大学名誉教授）

はじめに

私は 1946 年に広島市の黄金山の麓の仁保町楠那で生まれた「日系日本人」(Japanese Japanese) です。私には「日系アメリカ人」(Japanese American) のイトコたちがいます。祖父母がハワイ移民だったからです。旧仁保島からは多くの移民が出ています。

ゆかりのあるハワイへ行くことを希望していましたが、幸い 1971～73 年ハワイ東西センターならびにハワイ大学大学院へ留学することができました。そこでの体験がその後の私のキャリアを決定しました。国際交流、歴史における人の移動、異文化交流史、多文化共生といったテーマを研究・教育で扱ってきています。

広大を退職した直後の 2010 年 8 月東西センターでのワークショップ「歴史と記憶：太平洋戦争の遺産」に招待され参加しました。そこでアメリカのコミュニティー・カレッジの教員やアジア・太平洋の大学教員たちと研修しながら、私はパールハーバーとヒロシマとの和解の可能性を探りました。広島からのハワイ移民を手がかりに日米戦争をめぐるナショナルメモリー（国民的記憶）の克服をめざしたわけです。



TSS 文化大学で講演する著者

ところで、ハワイ・アメリカへの日本人移民の中では**広島県からの移民が最多**です。したがってハワイの日本人移民や日系アメリカ人を広島移民で代表させて考えています。ここでは、平和の実現を目指しながら**日系アメリカ人の戦時体験と和解**について考察しました。和解を、死者との和解、国内的和解、国際的和解に分けて検討してみます。

1. 広島からの移民

まず、広島移民が最多となった歴史的背景を概観します。

自然地形では、平野が狭く農家の**耕地面積も小さい**ものでした。全国 73 カ国のうち安芸は 72 位でした。水田耕作に適さない地質であり麻・木綿が生産されましたが食糧は不足しがちでした。他方、**人口の増加率**は 1721 年を 100 とすると、1872 年には全国平均で 127 のところ、安芸は 185 に増加しています。また、**安芸門徒が人口調節のための「墮胎」や「間引き」を禁止**されていたことも人口増加に影響したようです。

広島県は、海(瀬戸内海)に面して良港が多く、人々は漁業や海運業で**船乗りとして活躍**しており、**域外や海外の情報**に通じていました。海外への好奇心も大きく、海外移住への抵抗感が少なかったようです。1884 年千田貞暁県令(知事)が**広島湾の埋立と宇品築港工事**を開始しましたが、そのことは漁民がカキ・ノリなどの養殖漁場を失うことを意味しました。1885 年にハワイへの**官約移民が開始**されますが、その中には大河や江波の漁民が含まれていたはずです。

産業としては広島には 1894 年日清戦争まで城下町として主産業はありませんでした。大本営(作戦本部)の設置で**大陸出兵の基地**となり、**軍需産業**が発達します。しかし、そのことは**戦況で労働需要が変化**することを意味し失業の不安も伴いました。伝統的に広島県には**出稼ぎの風土**があります。北海道開拓のための移住がありました。女性は大阪の紡績工場へ、男性は九州の炭坑へ出かけていました。

官約移民が始まる 1885 年ころ、ハワイでは**3年間で 400 円**(現在の 4000 万円)貯金できると言われましたが、**月給 10 ドル足らずの給料**からいろいろの理由で天引きされ、3年間で 400 円の貯金は難しかったようです。他方、広島移民が 100 円から 700 円の貯金や送金をしていたとの指摘もあります。

広島県知事や移民会社が移民を奨励しました。広島移民は事前に「**出稼ぎ心得書**」で指導され、移住先では**勤勉な労働態度**をとることが多く、ハワイ政府やサトウキビ農場経営者の高い評価にもとづき広島移民が要請されました。

移民の成功がさらなる移民を誘発する**地域社会**のありかたも認められます。各レベルの議員や村長など**地域の有力者**が移民応募を斡旋しました。また、**役場での広報活動**と送金受け

取りは、地域社会での**移民の評判**を高め、さらなる**移民の誘因**となりました。

宗教面では浄土真宗の安芸門徒が多く、人々は域外への出稼ぎを厭わなかったようです。仏の導きでうまくいくとの未来志向が強く、**他力本願**の救済観が認められます。ハワイ移住にも大きな抵抗感がなく、専修念仏、すなわち、どこで死んでも浄土へ行けると考えていたようです。

私は、ハワイ大学に修士論文『東国における初期真宗教団の社会的構成』（1973）を提出しました。**親鸞**は流罪で北陸へ移住し、ついで関東での布教活動を行います。真宗の初期段階における**太子信仰**や「渡り」（港から港へと移動する人々）との結びつき、「山の民」や「海の民」など**移動する人々への布教**からは、浄土真宗が古くから**移動を容認**していたことがわかります。一度移動した移民は、ハワイからアメリカ本土へ、さらに南米へと**転住**することにも抵抗が少なかったようです。

ハワイの日本人移民の出身地は**広島、沖縄、熊本、山口、福岡**などにかたよっています。その理由は、**広島県の安芸郡仁保島や佐伯郡**や山口県大島郡のように最初の移民が成功すると、**芋ヅル式に移民が増加**したことが指摘できます。また、**県民性の影響**もあるようです。（牛島『日系人』130-2.）県民性として、「**陽気で楽天的**」という特質が最もよく表れているのが、**移民の多さ**です。明治から昭和にかけての**海外移住者の出身地**では、**広島県は10万9893人で第1位**、2位以下は沖縄県（8万9424人）、熊本県（7万6802人）、山口県（5万7837人）、福岡県（5万7684人）と続きます（JICA 横浜海外移住資料館の収蔵データより、1885～94年と1899～1972年の旅券発行数の累計）。（安西、101-2）

2. 日系アメリカ人の戦争と和解

（関連年表）

- 1869年 旧会津藩から米本土への移民、失敗。
- 1898年 アメリカがハワイ併合。この後、ハワイからの**転住者**が増加。
- 1906年 サンフランシスコの**排日運動**
- 1924年 **排日移民法**通過
- 1929年 **全米日系市民協会（JACL）**の発足。
- 1941年 **日米開戦**
- 1942年 2月**強制立ち退き命令**、**強制収容**。11月 JACL が**軍隊志願**を要請。
- 1943年 **日系二世部隊の編成**と訓練
- 1945年 1月**立ち退き命令解除**
- 1952年 **ウォルター＝マッカラン法案**成立、日本人の**アメリカ市民権獲得**が可能。

1978年 JACL大会で損害賠償要求を決議（リドレス運動）

1988年 政府の謝罪と損害賠償金支払い決議（市民的自由法）

（1）アイデンティティーの変化

過去の**多様な体験**が現在のアイデンティティーの**多様性**を生み出します。日系アメリカ人にとって最も深刻な体験が**日米戦争と強制収容所体験**でした。

開戦後、全米で13万人いた日本人・日系人のうち**西海岸**にいた12万人が収容されました。これはアメリカ政府による人種的差別政策であったといえます。戦時中や戦後にみられた**アメリカ各地への再定住や生活体験**が、日系アメリカ人の多様性をつくり出します。

戦後、日系アメリカ人と**他のエスニック・グループとの結婚事例**が増加するとともに、日系人としての**伝統文化や価値観の継承**が困難になりました。それがアイデンティティーの変化を引き起こしました。たとえば、日系ではなく**アジア系アメリカ人**と呼ぶような事例が多くなっています。

アイデンティティーの多様性を受容する社会は、国際的・国内的平和の実現を促進します。人種・民族的対立にもとづく戦争やテロを防止することにつながるからです。

（2）和解から共生へ

（死者との和解）

死者との和解という場合、それが、あくまで**生者の論理**に過ぎないという批判があるかもしれませんが、そのことを前提としたうえでも、考察する意義があると思います。

戦争跡地への巡礼が、**死者への弔いや慰霊**のためであることは否定できません。同時に、それは自分との**和解（自己受容）**、そして**死者（戦死者）との関係**で自分を位置づけることを可能にします。アメリカでは、日系人を中心とした、かつての**戦時収容所跡地への巡礼**が毎年行われています。たとえば、**マンザナー巡礼（Manzanar Pilgrimage）**が一例です。

聖地や戦跡では、神や仏への祈りによって**巡礼者へのいやしが**もたらされます。巡礼者は**自己浄化を経て「生まれ変わり」（再生）**を実現することになります。また、巡礼者は、**死者との対話**を行いながら、死者に対して**生きることの承認**を求めます。その場合の癒しとは、自分の**アイデンティティーを見出す**ことにほかなりません。生者は**なぜ自分が生かされているのか**を確認します。死者や犠牲者に対して「**おかげさまで**」という感謝の気持ちをもつようになり、自分が生きるために**再出発するエネルギー**を得ます。それが、巡礼が与えるものであり、**死者との和解**の内容です。

(国際的和解)

日米間の和解には、**3レベルの和解**が考えられます。

まず、**国レベルでの和解**は1951年サンフランシスコ講和条約により実現しました。日米**安全保障条約**が調印され、**軍事的同盟関係**が築かれたわけです。

つぎに、**元兵士レベルでの和解**は、かつて戦場で敵対した元兵士たちが、時と場所を共有した体験を語り合いながら相互に許しあう行為です。**1995年ハワイ**で、**真珠湾攻撃**に参加した元日本兵と攻撃された元アメリカ兵が出会い、将来の友情を確認して「**友好の碑**」を設立しました。元兵士の一部であったかもしれませんが、とりあえず和解が成立したと言えるでしょう。

さらに、**国民レベルでの和解**があります。**パールハーバーとヒロシマの「和解」**の可能性はどうなのでしょう。パールハーバーやヒロシマについては、日米戦争に関する**ナショナル・メモリー(国民的記憶)**が存在しますが、日米間の**歩み寄りが困難**であったと思います。日米戦争に関する記憶として、パールハーバーから原爆投下までを話す**アメリカ側**と、主として原爆投下以後を話す**日本側**とでは、和解のための歩みよりも困難でした。

しかし、国境を越えて移動した**ハワイへの広島移民**の視点にたてば、両者(パールハーバーとヒロシマ)を結びつけることができるのではないのでしょうか。**多くの移民家族が両方の悲劇を体験**しているからです。**広島からの移民やその家族**は、日米政府の決定により**二重の犠牲**になりました。かれらの体験は、自分たちの犠牲のみを主張する傾向がある**ナショナル・メモリー**をもつ人々に耳を傾けさせることができるでしょう。

1924年移民禁止法までの**ハワイ・アメリカ本土への日本人移民**では、**広島移民が最多**です。**1941年12月**、日本政府の決定で**真珠湾攻撃**が行われ、ハワイで最多の**広島移民が犠牲**になりました。ハワイの日本人移民たちは日本政府によって見捨てられたわけです。すなわち、**移民は「棄民」となった**のです。そうした事情はアメリカ本土でも同様であり、日本人移民や日系アメリカ人は**強制収容**されました。

1945年8月、今度はアメリカ政府の決定により**広島市民が原爆の犠牲**になりました。真珠湾攻撃によっては、ハワイの日本人や日系人**15万人余り**のうち、日本語教師や仏教開教使など日系社会の指導者を除いてほとんど収容されることはありませんでした。しかし、原爆でほぼ同数の**14万人の広島市民や広島移民の家族**が死亡しました。日本人移民や日系アメリカ人の運命は、日米政府の**軍事的決定**によって翻弄されたのです。

“Remember Pearl Harbor” や “No More Hiroshima” に代表される**ナショナル・メモリー**に影響された一般市民の間の和解のためには、日本、とくに**広島からアメリカへの移民の体験を語る**ことが重要です。ナショナル・メモリーの克服は、国益とか集団の利益とかを優先しては実現できません。**ナショナル・メモリーにこだわり続ける**こと、そして、その結

果引き起こされる偏狭な愛国心教育は、しばしば対立を引き起こし、戦争へと向かわせます。

過去を忘れてはなりません。忘れたら、同じ過ちを繰り返すことがあるからです。パールハーバーやヒロシマについて忘れるべきではありません。ただ、それぞれを記憶するだけでなく、両方の悲劇を体験した広島移民たちやその家族がいることも忘れるべきではありません。日米2つの見方だけでなく、広島移民の第3の立場もあるという戦争についての多様な見方を語るべきです。

(国内的和解)

日本人移民や日系アメリカ人は、戦時中の強制収容体験を戦後どのように乗り越えていったのでしょうか。リドレス運動 (Redress Movement : 政府による正式な謝罪と賠償金の支払い請求運動) を経て、かれらは「日系アメリカ市民」として認められるようになります。

アメリカ国内では、戦争中の日本人や日系アメリカ人の強制収容に関する正式の謝罪と賠償金支払いを求めたリドレス運動を通じて、日系人の集団とアメリカ政府とのあいだの和解が実現しました。それは、1988年レーガン大統領のとき、政府が謝罪と賠償金 (一律2万ドル) の支払いによって、日系アメリカ人のアメリカ社会への受容を公式に行った儀式であったといえます。市民的自由の法として結実しました。

この運動を通じて証言した日系人の一世・二世は、それまで強制収容所体験を「しかたがない」と考え、長く沈黙を守ってきました。彼らが重い口を開いて、自分たちの強制収容体験を語り始めました。公聴会で自分たちの過去の体験を証言することによって、精神的浄化 (カタルシス) を得たと言えます。そして、未来に向かって生きていく力を得たのです。この点は、被爆者の「語り部」と共通した体験をもっているでしょう。また、三世以下の若い世代は、日系人としての過去の戦時体験について学びました。多くの三世以後の日系アメリカ人は戦前・戦中・戦後の一世たちの苦労をしのびながら、自分たちの恵まれた現状を、祖父母・両親の「おかげである」とみなしています。

リドレス運動の成功と市民的自由法は、日系人がアメリカ人として社会的に認められたことを示していました。リドレス運動は、自分たち日系人が差別の対象としてしか考えられなかった状態、言い換えれば、自己を否定せざるをえない状態から、日系アメリカ人として、アメリカ社会の中で居場所を認められ、自己を肯定できる状態への変化をもたらしました。なお、この運動の成功には、他のエスニック (民族) グループからの支援が貢献・影響していたことを忘れてはなりません。ヨーロッパ戦線で日系人部隊によって解放されたダッハウ強制収容所のユダヤ人と全米ユダヤ人協会や救出されたテキサス部隊の退役軍人たちの協力は代表的なものです。また、この運動が日系人だけの問題から、アメリカ市民としての日系人の自由が侵されたことを問題にするようになったことも成功の一因として指摘できる

でしょう。

差別され否定されることで自分たちについて**ネガティブなアイデンティティー**しか持ち得ない状態から、日系アメリカ人（日系人がアメリカ市民として認められた）として**ポジティブなアイデンティティー**を持ち得るようになりました。それは、自己肯定(受容)への過程であり、それにより、はじめて他者との関係を築くことができるようになったわけです。2001年同時多発テロ（9. 11）直後のイスラム系の人々への迫害（誤ちのくり返し）を懸念して表明された宣言に見られたように、日系アメリカ人は、他のマイノリティーのための支援活動へと積極的に関わっていけるようになったのです。

リドレス運動による変化は、日本人や日系アメリカ人の価値体系にある「しかたがない」という生き方から「おかげさまで」という生き方への変化として捉えられます。理不尽な差別体験に関する「しかたがない」という姿勢は、それでも、せいっぱい現実を受け入れて生きていくための第一歩でした。そこから、社会的承認を得ることで取り得る「おかげさまで」という姿勢、すなわち、**多くの民族が共存しながら「相互に生かされている」との認識**へといたります。それは**共生への第一歩**です。

多様なものの見方、多様な文化や価値観があるなかで、**他者との関係の中で生かされている**、すなわち「おかげさまで」という考え方ができるようになれば、それは、**多文化共生社会を実現する一助**となるはずです。広島からの**ハワイ・アメリカ移民の歴史**や日系アメリカ人の**自立と和解の体験**は、われわれにそのことを語ってくれています。

おわりに

最後に、日米間の和解に関する注目すべき出来事に言及しておきたいと思います。

まず、2013年9月21日**真珠湾のアリゾナ記念館ビジターセンター**へ佐々木禎子さんの**折り鶴が寄贈され展示**されました。アメリカ側の大きな変化でした。

つぎに、2016年5月27日**オバマ大統領**が広島を訪問しました。多民族共生社会である**ハワイ出身の大統領**です。日系人を身近に接して育っていたことも無視できないでしょう。

オバマ大統領の広島訪問は次のような点で注目すべきでしょう。

- ・訪問は慰霊のためですが、戦争犠牲者への祈りには「過ちは繰り返さない」という平和の誓いが含まれていたはずです。
- ・折り鶴の寄贈は、生きる希望の象徴であり平和のシンボルとみなされます。
- ・日本被団協代表委員の坪井直さんと握手は、和解とこれから被爆者と核兵器廃絶運動をめざすという意図の確認でしょう。
- ・被爆者で歴史家の**森重昭**さんの招待と抱擁は12名の被爆死した**アメリカ兵捕虜**への慰霊

でしょうが、さらに、私は、アメリカ政府とアメリカ兵捕虜ならびに遺族との和解が成立したと思います。政府がアメリカ兵の存在を初めて公に認めたからです。

- ・未来の世代（子供たち）が平和に暮らせる世界の実現にむけての努力が強調されました。
- ・人類による核兵器の保有と使用がどのような犠牲をもたらすかを知ったヒロシマから出発することが強調されました。それは戦争防止の重要性を意味します。
- ・私は、オバマ大統領のメッセージを要約すれば、“Remember Pearl Harbor” “No More Hiroshima”を“Remember Hiroshima” “No More Pearl Harbor (War)”（ヒロシマを忘れないで、戦争を起こすな）と言い換えることができるのではないかと思います。

(参考文献)

- ・2013年9月23日「中国新聞」記事。「禎子の鶴、真珠湾に光。常設展示開始、平和の種に」
- ・安西巧（たくみ）『広島はすごい』新潮新書、2016。
- ・川村のり子「平和と共生を求めて一歴史から観る真珠湾と広島との和解」植田隆子・町野朔編『平和のグランドセオリー序説』風行社、2007。
- ・トミ・カイザワ・ネイフラー著、尾原玲子訳『引き裂かれた家族—第二次世界大戦下のハワイ日系七家族』日本放送出版協会、1992。
- ・野崎京子『強制収容とアイデンティティ・シフト—日系二世・三世の「日本」とアメリカ—』世界思想社、2007。
- ・牛島秀彦『ハワイの日系人—真珠湾体験からの出発—』三省堂新書、1969。
- ・山代宏道「日系アメリカ人の和解とアイデンティティ」『西洋史学報』39（2012年3月）pp. 41-68.
- ・山崎俊一『ハワイ出稼人名簿始末記—日系移民の百年—』日本放送出版協会、1985。
- ・柳田由美子『二世兵士 激戦の記録—日系アメリカ人の第二次世界大戦—』新潮新書、2012。

（本稿は2017年9月19日に行われたTSS文化大学における講演の概要です。）